

C-1 指導案

地理歴史科学習指導案

指導者 石川県立金沢桜丘高等学校・教諭

指導日時 平成19年6月18日(月) 6限
対象生徒 2年生 地理B 11名
科目名 地理B(4単位)
使用教科書 『新詳地理B』(帝国書院)

1 単元名 4節 世界の気候

2 単元の目標

- (1) 世界の気候には地域性と共通性があることをケッペンの気候区分を通して理解する。
特に同じ気候区に属している地域に見られる類似性を理解する。【知識・理解】
- (2) すでに履修した世界の地形の知識をふまえ、気候や植生など系統地理的な視点や方法で世界の自然環境を大観し、それぞれの地域における気候の因果関係について考察する。【思考・判断】
- (3) 気候や植生がそれぞれの地域の生活や文化にどのような影響を及ぼしているかに関心を持つことによって本来の基本的な自然環境についての知識を深める。
【関心・意欲・態度】【知識・理解】

3 指導にあたって

(1) 生徒の状況

文系の生徒で地理Bを選択している11名の講座である。国公立大学文系学部を目指し、大学入試センター試験受験を考えている生徒であり、基本的な能力もおおむね高く、授業態度も落ち着いている。小集団である特性を生かし、できる限り全員に発問し、言葉を交わしながら授業を進めている。アットホームな雰囲気でお互いのユーモアも通じやすい。

(2) 指導方針・方法

- ・2年間にわたって地理Bの授業を受けてきた生徒に感想を問うと、決まって2年生の後半から授業がますます面白くなってきたと答える。これは2年の最初の段階での自然地理を中心とした基礎的な部分を学習する過程では、それぞれの基本的項目が全体のなかのどのような役割を果たすのかが見えてきにくいこととも関連があると思われる。
- ・そこで少なくとも気候や植生を学習する際、一度立ち止まって、人間生活との関連を考えさせる時間を持つのがよいと考え、このような授業に取り組んでみた。
- ・特に熱帯の生活と文化については日本の生活や文化とを単純に比較して安易に特徴を並べるに留めることを最初にやってしまうと、そのことが後の南北問題や国際貢献といった分野の学習において一種の固定観念から抜け出せず、机上の空論としてとらえてしまうきらいがある。
- ・そこで熱帯気候の学習の段階でJICA(国際協力機構)が2001年に発行したJICAフォトランゲージキットを用いて、参加型学習の形式を取り入れながらいわゆる「開発教育」の入り口にたどりつくことを目標としたい。

4 単元の指導計画(総時数5時間)

- 第1時 気候の成り立ち 気候要素と気候因子、気候の変化と地球温暖化、現代社会と気候
第2時 世界の気候区分(1) 熱帯・乾燥帯(その1)・・・本時
第3時 世界の気候区分(2) 熱帯・乾燥帯(その2)
第4時 世界の気候区分(3) 温帯
第5時 世界の気候区分(4) 亜寒帯、寒帯

5 本時の指導計画（総時数5時間中第2時）

(1) 本時のねらい

- ① 写真教材を利用し、そのなかから熱帯や乾燥帯の特徴を引き出しつつ、自然環境について考察することができる。【思考・判断】
- ② グループ活動において積極的に他の生徒とともに写真教材に取り組み、聞き手にわかりやすく発表することができる。【資料活用の技能・表現】

(2) 準備・資料など

写真教材（JICAフोटランゲージキット：2001年8月1日 国際協力事業団（現、国際協力機構）発行）、模造紙、付箋紙、筆記用具、振り返り用紙

(3) 本時の展開

時間	生徒の活動	教師の指導・支援	評価規準 【観点】（評価方法）
復習 3分	・確認テストを配布し、出題者が問題5題を出す。	・確認テストに関連させながら前時の要点を確認する。	
導入 3分	・本時の学習目的を確認しながら熱帯と乾燥帯のイメージをつかむ。 ・ケッペンの気候区分における熱帯、乾燥帯について学習することを理解する。	・教科書や資料集を通して熱帯と乾燥帯の最初の印象をしっかりと持つように発問を行う。 ・本時の授業の意義を説明し、気候を理解することの一環であることを押さえる。	
展開 10分	・グループに分かれ、写真教材を見て、そこから何が分かるかについてそれぞれが考え、付箋紙に書き出す。その付箋紙を模造紙に貼り付けていく。	・付箋紙を貼り付ける際、どのような意見が出てもお互いに批判したり序列化することなく模造紙に貼り付けていくよう指導する。	・グループの中で他の生徒とともに積極的に写真教材に取り組み、考察している。 【思考・判断】 （付箋紙への記入、活動の様子）
10分	・班ごとで付箋紙の意見を整理しながら話し合い、さらに各班で教師から写真の解説を聞いたうえで、その国や地域の気候や文化について班の中で整理する。	・机間指導しながら、どのどんな国だと思うかを尋ね、その理由を答えさせることで考察を深めさせていく。さら各班を回りながら気候との関連で写真の解説をし、補足説明を加える。	・それぞれの国や地域の気候や生活について、重要なポイントを中心に理解している。【資料活用の技能・表現】（発表や質疑応答、発問）
20分	・各班の写真について、その班ではどんな意見が出たか、実際にはどういう写真なのかを中心に発表する。 ・他の班からの質疑応答を行う。	・意見発表については時間や生徒の状況に応じて行っていく。発表者が回答に苦慮している場合は補助を行う。	
まとめ 4分	・感想を「振り返り用紙」に書き込む。	・写真教材を最初に見たときの印象と学習を終えたあとの印象を比較しながら感想を書くように指示する。	